

# 奨励賞・U40 建築賞

I 新築の建物  
I-1 居住・生活空間系の建物



設計担当者

木藤美和子

(株) OKDO、東京建築士会

専用住宅／静岡県沼津市

## 森を育む丘の家

構造 | 鉄筋コンクリート造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 807.58㎡

建築面積 | 359.96㎡

延べ面積 | 428.22㎡

竣工年 | 令和5年



1



2

- 1 外部の環境を大きく取り込む内部空間
- 2 大樹の庭から空へと続いていく景色
- 3 アプローチから大樹の庭を眺める。創作の庭、大樹の庭、団らんの庭、それぞれの庭が高さを変えて連続していく
- 4 火の庭から水の庭を眺める
- 5 建物鳥瞰。緑の丘は新興住宅地の憩いとなる

写真… Daici Ano



3



4



5



断面図

## 選評

一見、外構がスパイラル状にルーフにつながった既視感のある住宅に見える。しかし実際に訪れてみると、住宅造成地における建築的可能性や、温暖な気候を生かした内外の積極的な連続に対する試みが、具体的な空間として提案されていることに気づく。

計画地は、典型的な住宅造成地であり、各住宅の足元に鎮座する擁壁が生み出す典型的な住宅造成地的景観を持つ場所である。

まず建築家は、住宅を囲む塀を街路から大きくセットバックさせ、緑地を擦り付け擁壁の高さを最小限に抑えた。加えて、大型の住宅にも関わらず周辺の住宅よりも一層低く抑えて存在感を抑え、造成地の中にポケットパークのような空間を生み出すことを試みている。

一方住宅の内部は、たとえば玄関を抜け最初に入る部屋は、屋根はあるものの中庭との間には壁も建具もなく連続していて、内外の境界

線が揺らいだ空間となっている。じつはここに限らず住宅には複数の外部空間が挟み込まれ、全体が多孔質な空間をとり、さらに中庭とも接続されることで、開放的な空間が生まれている。加えて、セットバックした緑地の存在により中庭や住宅内部からは周辺の住宅の存在は消し去られ、住宅造成地でありながらそれとは一定の距離感を持つサンクチュアリを生み出すことに成功している。 (山梨知彦)